

報道関係者各位

令和7年5月1日

赤れんが博物館小企画展「フラワーブリック フラワータイル」展の開催について

赤れんが博物館小企画展「フラワーブリック フラワータイル」展を開催しますので、お知らせいたします。当館収蔵品の中から、草花をモチーフにしたれんが、タイルを展示します。

古くから建物の構造材として用いられてきたれんがは、建物を美しく飾るため、次第にれんがの表面に浮彫を施したり、色をつけたりするようになりました。れんがの表面に施されていた浮彫・彩色は、やがて装飾用建材としてのタイルを生み出しました。

【1】企画展

- 1 名称 舞鶴市立赤れんが博物館小企画展「フラワーブリック フラワータイル」展
- 2 趣旨 一般的にれんがは、色の濃淡、大きさの大小はあっても外観は違いがわかりにくいものが多くあります。このため、子ども達にも興味を持って見学してもらえるよう、当館収蔵品の中から草花の浮き彫りなどのあるれんがやタイルを展示します。
- 3 日時 令和7年5月3日（土・祝）～7月21日（月・祝）会期中は無休
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 4 場所 舞鶴市立赤れんが博物館2階
- 5 入場料 常設展示と共通 一般400円、学生150円
市内学生（在住、在学）は入館無料
- 6 主催 舞鶴市立赤れんが博物館
- 7 内容 展示点数 れんが 4点、タイル 6点
 - ① 鶴と牡丹の塼^{せん} 1点（中国、元代（1260～1368））
 - ② 百合文れんが 1点（イギリス、14世紀）
 - ③ 草花文れんが 1点（ベルギー、1580年代）
 - ④ 修復用装飾れんが（バラ） 1点（イギリス、現代）
 - ⑤ ルンプ付タイル 1点（ロシア、19世紀初～中期）



SDGs 未来都市

舞鶴市 文化振興課 赤れんが博物館（神村）
〒625-0036 舞鶴市字浜 2011
[TEL:0773-66-1095](tel:0773-66-1095)、[FAX:0773-64-5123](tel:0773-64-5123)
E-mail: renga@city.maizuru.lg.jp

- ⑥ ヴィクトリアンタイル(近代湿式象嵌^{しっしきぞうがん}タイル) 1点 (イギリス、19世紀)
- ⑦ ヴィクトリアンタイル(チューブライニングタイル) 1点 (イギリス、19世紀)
- ⑧ 瀬戸本業^{ほんぎょう}花文敷瓦^{かもんしがわら} 1点 (愛知県瀬戸市、明治末期)
- ⑨ 多彩草花文有田^{そうかもんありた}タイル 1点 (佐賀県有田町、昭和初期)
- ⑩ 孫文記念館(移情閣^{いじょうかく}) 装飾タイル(複製) 1点 (孫文記念館 兵庫県神戸市、タイル イギリス製、現代)

【2】 主な展示物紹介

1. 花のれんが

- ① 鶴と牡丹の磚<中国 宋 (960～1279年) 280mm×280mm×70mm 5.4kg>

中国の文様は、中国人の持つ吉祥思想と深く結びついており、装飾として建築などに用いられた。この磚は仏教建築に使用されていたもので、磚の紋様である牡丹は、皇帝の住まいである宮殿の庭に欠かすことのできない富貴を象徴する花で中国の国花。また、乙女のシンボルである。



- ② 草花文れんが<ベルギー 1580年代 138mm×98mm×83mm 1.3kg>

ヨーロッパではイギリス、オランダとともにれんが建造物が多い国であるベルギーの都市リュージュ製の暖炉用に製造されたれんが。中央に花のモチーフが使用されている。



- ③ 修復用装飾れんが(バラ)<イギリス 現代 152mm×150mm×83mm 2.8kg>

頑丈なれんが建築物も、時間の経過とともに破損していく。れんが建造物の多いヨーロッパでは、文化財などの修復用れんがを専門に作る会社も多く、これは、型はめによって作られた「チューダー・ローズ」の修復用れんがである。



2. 花のタイル

- ① ルンプ付タイル<ロシア 19世紀初～中期 232 mm×142 mm×76 mm 1.8kg>

白地に青で描かれたオランダ風のペチカ用タイル。ロシアのタイルは、主にペチカや壁の外装に使われる。タイルの裏側は箱のようになっている（ルンプ）、タイルを積む際の補強に使われる。



タイル裏側の「ルンプ」

- ② ヴィクトリアンタイル（バラ）（チューブライニングタイル）

<イギリス 19世紀 154 mm×154 mm×9 mm 0.4kg>

18世紀に産業革命を達成したイギリスでは、ヴィクトリア朝時代（1837～1901年）においてタイル産業の技術も発達し、大量生産されるようになった。チューブライニングタイルは、細いひも状の粘土でデザインを描いて色釉が交じり合わないようにして焼き上げるタイルである。



- ③ 多彩草花文有田タイル<佐賀県 昭和初期 153 mm×153 mm×11 mm 0.5kg>

日本でタイルの生産が始まったのは、明治に入ってからであり、古来から焼き物が盛んであった瀬戸や有田で西洋の影響を受けて作られ始めた。その後、イギリスのヴィクトリアンタイルを模倣したタイルが国産化され広まっていった。

